Management Club Report

Sep.2021/Vol.225

Monthly Opinion ≪一流スタッフと一流歯科医院≫

先月は『歯科医院組織力の一級と二級』について、そのレベルの違いを組織力という切り口で考えました。今月はもう一段議論を掘り下げて、一流歯科医院の組織構成員であるスタッフのあるべき姿を、『歯科医療従事者としての職務能力のレベル』、『品格ある社会人としての教養のレベル』、『チームプレーヤーとしての行動のレベル』という３つの面でのレベルについて考察することと致します。

様々な歯科医院に研修という仕事で伺っていますが、私どもが負う責務は上記３つの面の内の後者２つのレベルアップについてです。おそらく『一流歯科医院』を目指そうとする院長は『職務能力のレベル』が高かったとしても『社会人としてのレベル』、『チームプレーヤーとしてのレベル』が低いままでは絶対に『一流歯科医院』としての認定を得ることはできず、競合水準が高くなった現代の過当競争を勝ち抜くことはできないと考えているのだろうということが最近ひしひしと伝わってきます。と言うのも、そのような意識を持っているであろうと思われる歯科医院からの新規のオーダーが昨年より漸増してきているのです。

私どもは、先月号でお伝えした『八方美人的な歯科医院』や『時間の約束を守らない歯科医院』という軽い体質を改めるところからアプローチし、全員の社会人としてのレベルとチームプレーヤーとしてのレベルを高めるための具体的な改善指導へと向かうようにしています。そのような活動を行っている私どもの考え方の基本を文章にしてお伝えいたします。「直接医院へ来て話し、指導してほしい」と思われる方はどうぞお声をお掛け下さい。

1　一流歯科医院を目指してきた歯科界の動き

1980年から1985年は開業ラッシュ時代

歯科医院の競合水準が高くなったと述べましたが、具体的にはどういうことでしょうか。しばし時代の変遷を辿ってみますので、『私説歯科界 40 年史』にお付き合いください。

私が歯科界にお世話になり始めたのは 1980 年。その前年に創業した**ジャパンデンタル**という歯科専門金融商社のプロパー社員第一期生として入社した年です。それからの 5 年間は新規開業に分院開設が加わり当に歯科医院の開設ラッシュのような状況を呈します。

次ページの表**《5年ごとの日本の総人口と歯科医院数、50年間の推移》**を見ますと、1980 年から 1985 年までの 5 年間の歯科医院数の増加（6,726 軒）が 50 年間で、と言うより我が国歯科界の歴史上最も多かったことが分かります。1 年に